



1. 地上30mの屋上庭園へと続く、緑のひな壇
2. 県産無垢材を用いたメインホール
3. 借景・築山・水景・舞台の4要素を継承



日建連表彰2022



第63回BCS賞

# 熊本都市計画桜町地区 第一種市街地再開発事業

選定理由 【選考委員】  
山内弘隆・堀部安嗣音 順二

地方都市住民のアイデンティティを形成する一つの要素は、その都市がもつ象徴の存在である。熊本が背負っている歴史と「熊本城」の存在をみると、そのような理解が腹に落ちる。特に、震災という未曾有の危機に対して立ち向かう市民の力強さに触れれば、象徴の重要性が一層明らかになる。

受賞作品は、バスターミナルを中心に、商業・文化・宿泊・住居機能、更には防災機能も兼ね備えた大規模複合施設である。その設計コンセプトは「城の領域を拡げること」である。そもそも城下町熊本は、加藤清正の築城以来、城の一部として扱われていたという。特に、藩主屋敷は泉水と築山で構成された格式高いもので、「陽春庭」と呼ばれていた。受賞作品は「現代の陽春庭」を

標榜する。たしかに、「城との庭つづき」というイメージ形成に成功している。

これを可能としているのは七階メインホール前面の屋上庭園である。その眺望は江戸末期に描かれた「陽春庭中之図」を彷彿とさせる。屋上庭園は積層デザインの最上部に位置するが、設計者によれば、このひな壇は熊本城を構成する水平ラインの重なりを踏襲したものであるという。再開発施設前面に整備された桜町花畑オープンスペースと相俟って、拠点性と吸引力が確立されている。

受賞作品を純粋に建築物として捉えた場合、ホール棟についてBox-in-Box構造や二重スラブ構造を採用し、騒音や振動伝播に配慮している点、駐車場棟とパンケット棟が純ラーメン鉄骨造であり、商業棟がブレース付き鉄骨造である点などが構造的特徴として挙げられる。また、熊本地震復興の

シンボルとして、駐車場以外は重度用係数が一・二五となっている。防災・減災については、屋上庭園を含めた施設全体が帰宅困難者の一時待機スペースとして利用できるよう設計されている。

経営環境が厳しい地方交通事業者が中心となって企画立案、実現した施設であり、その意味での重要性がある。一階には日本最大級のバスター数を誇るバスターミナルが整備され、地域公共交通の維持・再興に向けた意気込みが感じられる。ただ、強力な人流のハブ機能と魅力的な商

業施設が集中することで周辺商業地区への影響が懸念される。施設運営者は共存・共調を主張するが、一層の配慮が必要とされるであろう。

熊本城自体、建築における革新性、先進性を内包していることが報道されている。四〇〇年の歴史を刻んだ熊本の象徴と、新たに登場した都市再生の拠点が相乗効果を醸し出すことが、熊本の再生に欠かせないのかもしれない。あるいは、町の中心に位置するこの壮大な建築物を俯瞰すると現代版熊本城に映るといえば、それは言い過ぎであろうか。

## 熊本都市計画桜町地区第一種市街地再開発事業 概要

- 所在地 熊本県熊本市中央区桜町3-10他
- 建築主 九州産業交通ホールディングス(株)、(株)関電エネルギーソリューション
- 設計者 (株)日建設計、(株)太宏設計事務所
- 施工者 大成建設(株)、(株)吉永産業、(株)岩永組、(株)三津野建設、新規建設(株)
- 竣工日 2019年9月10日
- 敷地面積 30,301㎡
- 建築面積 27,206㎡
- 延床面積 164,100㎡
- 階数 地上15階、地下1階、塔屋1階
- 構造 鉄骨造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造



詳細や他の写真などは  
左記の二次元コードからWebページに  
アクセスしてご覧ください。

《日建連表彰2022 第63回BCS賞受賞作品》 熊本城特別見学通路／熊本都市計画桜町地区第一種市街地再開発事業／GREEN SPRINGS／国立競技場／THE HIRAMATSU京都／三栄建設 鉄構事業本部新事務所／ダイヤゲート池袋／谷口吉郎・吉生記念金沢建築館／東京大学総合図書館／東京都公文書館／長野県立美術館／延岡駅周辺整備プロジェクト／Hareza 池袋／横浜市庁舎／早稲田大学37号館 早稲田アリーナ

BCS賞

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2022年で63回を数えました。